

ちばしや通信 (Vol. 9)

特集 福祉・介護における “クオリティ” を考える

前号に引き続き、福祉・介護における
“クオリティ” を他地域での実践事例を通
じて考えていきたいと思えます。

【事例】 おたがいさん（神奈川県藤沢市）
(高齢分野：小規模多機能型居宅介護)
「近隣の子どもを巻き込んだ取り組み」

株式会社あおいけあ小規模多機能型居宅介護おたがいさんは、住宅街の一角にある。当初、グループホームと小規模デイサービスを提供していた。当時、事業所が歩道の狭い車通りの多い車道に面していることからあえて塀を作らず、地域の方が敷地を通るように仕向けた。そのことによってサラリーマンや学生、子ども達が近隣の駅に向かう近道として、事業所の敷地内を気軽に使われるようになった。しかし、気軽に通り道として利用されるも、事業内に立ち寄るまでは至らなかったようである。

そこで、その通り道が単なる通過点になってしまふことなく、足を止めてもらえる「場」になるにはどうしたら良いのかを検討した。

その結果、まず初めに取り組んだのがトイレとベンチの設置である。事業所の利用者のみならず、そこを通る誰もが利用できるような場所にトイレを設置した。これによって近くの公園で活動されている方たちがトイレを借りに来てく

れるようになった。そして、玄関横に気軽に座れるベンチ。これによって利用者は、靴を履く、脱ぐという時に便利になった。

しかし、これだけでは、まだ子どもたちが事業内に立ち寄ることはなかった。

そして次にトイレの横に本棚を設置し、マンガを置いてみた。すると公園で遊んでいた子どもが、トイレを借りに来た後、玄関のベンチに座ってマンガを読む光景が見られるようになったとのことである。更に、玄関に棚を設置し、そこに駄菓子を置いた。すると、駄菓子があることが小学生の中で口コミのように広がり、子どもたちが買いに来るようになった。そしてその子どもたちの姿に最初に気づくのは、利用者だった。最初は「ほら子どもが呼んでいるよ」と職員を呼んでいた。しかし、1人でやってくる子どもは少なく、2人以上で来るので職員1人の対応では難しいと感じられたのか、利用者がその子供たちの対応に手伝ってくれるようになり、そのうち、子どもたちが入ってきたら「いらっしゃい」と声をかけるように変化していったそうである。認知症があつて計算が少し遅くても、高齢の利用者の対応力はすごい。計算はすべて子どもたちにしてもらってしまう。子どもが「これください」と来れば、すかさず「いくらだい?」「おつりはいくらだい?」と聞き返してしまう。駄菓子の売り買いを通して利用者と子どもたちの接点が生まれたのである。

この事業所では地域の中の通り道だった事業所の敷地がトイレやベンチ、マンガ、駄菓子を手段として、子どもたち

が自然と事業所の中に入り始めたこと
によって、利用者と子供たちが自然に触
れ合える「場」に変化したのである。そ
の後、事業所の地域向けの「流しそうめ
ん」のようなイベントのときは、無料で
そうめんが食べることができると自分
たちでチラシを作り小学校で配布する
ようになった。すると子ども達だけでな
く、保護者や小学校の教員までもがイ
ベントに来るようになった。何年も経過
してくると、名前が解らなくとも自然に
挨拶が交わされ、会話も生まれる。これ
が隣近所の普通の関係である。

【事例】

50年農業一筋80歳代男性。病院から退院したが、家で外にも出ずに過ごし、体力的にも運動能力的にも低下がみられていた。家族から外に出る機会になればとサービス利用の相談があった。そこで、敷地内の空いている土地を活用し今までの経験を活かして畑をつくってもらうことになった。利用当初は、何故行かなければならないのかと疑問を持っておられた。しかし、職員から「ここに畑をつくりたいので、教えていただけませんか？」と持ち掛けると「仕方ねえな」と話されながら、土の作り方から鍬の使い方、気象状況を見ながら種をまく時期はいつ頃だと、ひとつひとつ丁寧に教えてくださった。そうすると、職員と利用者という「支える」「支えられる」という関係から、「教えてもらう人」「教える人」となり、職員は尊敬の眼差しに変わる。当初は畑づくりをしていたが、「自分たちで米づくりをしたい」という職員の希望を伝えるとそれも快諾され、苗を買ってきて、プランターで米づくりを始めた。苗をプランターに植えると少し苗が余った。それを、事業所の外に置いていたら、駄菓子を買いに来た子

どもたちが「苗もらって良いですか？自分たちもやってみたい」と近くのスーパーから発砲スチロールの箱をもらってきて、学校帰りや休みの日に米づくりを始めたのである。利用者と子どもたちの苗を横に置き、利用者が自分たちのものだけ気にかけるようにして子供たちの苗はあえて、世話はしないことにしてみた。成長してくると当たり前ではあるが、プロが育てたものと、子どもたちの苗とでは成長の度合いが全く違う。それを子ども達は見て「じいちゃんすげえ」と利用者に対して尊敬の眼差しに変化したのである。この頃になると、農業を教えてくれている利用者は、家族から「今日おたがいさんに行く日よ」と声をかけると「仕方ねえな、俺が行かないと困るからな」と言われるようになった。収穫した米は事業所で食べ、その藁で縄を結び、その縄で秋から冬にかけて軒先に大根や柿を干す。この光景は昔からの当たり前前の光景であるものの、子供たちにとって初めての光景で「何をしているの？何ができるの？」と目を輝かせながら聞いてくる。

ある日、事業所に駄菓子を買いに来た子どもが言った。「ねえ、ここにいるおじいちゃんやおばあちゃんは認知症じゃないよね。だってテレビで見たのは全然違うもん」と。おたがいさんは利用者の9割の方が認知症である。

代表の加藤さんは最後にこれから目指していく小規模多機能のあり方を以下のように語ってくださいました。

「施設慰問という大人が作り出した交流の機会ではなく、自然と子ども達が自分から行こうと思えるような取組みが大切だと思います。私の経験上、慰問に来てくれた子どもたちがその後、施設に足を運んでくれることはありません。

そして、もし、自分が高齢者の立場であれば一方的に「慰問」をされることはお断りしたい。なぜ高齢者の自尊心をつぶすような行為をするのだろうか？多世代の交流ができることで、認知症に対しても「怖い」「おかしな人」という偏見をもたず、人としてあたりまえの付き合いができるようになると思います。うちで働いているスタッフの娘さんは小学校の時から「おたがいさん」で殆どの時間を過ごしています。自宅に帰っても親はいないので、中学・高校時代も部活が終わるとここに帰ってきます。弊社ではスタッフは子どもを連れて出勤して構わないとしています。利用者さん達が見守り遊んでくれます。ちなみにこの娘さんは高校を卒業する年、進路先に「株式会社あおいけあ」と書いていました。現在22歳で入社4年目、親子で働いています。小規模多機能には保育所も学童保育も必要ありません。今後は小規模多機能のスペースを使い不登児への支援も本格的に開始していきます。小規模多機能

は高齢者の為だけの事業所ではなく将来をになう子ども達を含めた全ての人の居場所にできると考えています。



<おたがいさん・概要>

【事業所名】

おたがいさん

【法人種類】

株式会社

【事業所住所】

神奈川県藤沢市亀井野 4-12-93

【生活圏域人口】

35,000人

【市町村人口】

42万人

【生活圏域の設定数】

2圏域

【生活圏域の地域特徴】

住宅地

【生活圏域高齢化率】

20.05%

【平均介護度（H27年2月12日現在）】

1.75%

【登録定員／登録者数】

23/25（H27年1月1日現在）

【通い定員／通いの1日平均数】

11（直近1月の平均）

【宿泊定員／宿泊の1日平均数】

2.4（直近1月の平均）

【1日あたりの訪問件数】

4件

※注 特集の原稿は、紹介する団体や関係団体から提供される原稿、又は本会取材の原稿等からになります。原稿によって文体が異なる場合がありますので、ご承知おきください。

7月初めから降り始めた雨は時には激しく、梅雨時のしとしと雨とはやや趣の違う天候不順な日々がしばらく続いた。この間、気象衛星ひまわりの世代交代があり、気象予報の精度は飛躍的に向上し、各テレビ局の気象予報士は、雨雲の動き、特に積乱雲の発生状況がかなり正確に把握出来るので、ゲリラ豪雨や時によっては竜巻注意情報もより現実に近い予報が出せることになると、多くの期待感をもって気象解説をしていた。

降り始めからの9日間の日照時間は東京でわずか24分とのことで、大変驚きであり40数年ぶりのことであるとも話をしていました。

自分も愛犬（秋田犬の雑種）の散歩を日課としているので、天気予報で雨雲の動きをよく見ている。夜は1時間以上、朝は大体40分程度なので、出来るだけ雨天時の散歩は避けるよう心がけている。

昨日からは猛暑日となり、北海道と埼玉では熱中症による死者も発生している。梅雨明けともなればこの地方でも連続猛暑日10日というのも珍しくない。本会も高齢者や障害児者の地域生活支援をしていることから、熱中症対策や暑さに起因する様々な疾病に特に配慮する必要がある。猛暑はこの時期の最大のリスク要因で、対人援助は当然個人差があり、室温や水分摂取だけではなく、小さな体調変化も見逃さないように、お預かりをしている方々の状態を常によく見て、職員同士が情報共有し、変化があれば救急対応を含め、迅速かつ適切な行動をすることが求められる。特に、在宅独居の高齢者は、温度に対する感じ方が十分ではなく、熱中症による重大な状況になることも想定されるので、在宅でのケースでは、その方の生活パターンをしっかり把握しておくことも大事である。在宅支援の連絡帳は、高齢・障害を通して、これらのリスクを事前に知ることが出来る重要なツールではないか。

話は逸れるが、7月5日に起きた、岩手県の中学2年生の「いじめ」を苦にした、東北本線・矢幅駅での飛び込み自殺は、本当に痛ましいものであり、ここでも過去の教訓は生かされず、一昨年制定された、いじめ防止対策推進法に基づき、学校内にいじめに対する組織や体制が常設されているにも関わらず機能していないという現状が空しくも存在する。生活記録ノートでのやり取りの中で、多くのシグナル発せられている中で、情報がしっかり共有出来ず、結果として惨事を招いてしまった。

大切な命を預かるという点では、福祉現場も学校現場も同じで、マニュアルが整備されていても、運用するのは人間であり、多くの命を失う事故の多くはヒューマンエラーである。最も身近にいる人の感性と、危険を予知する訓練が現場では最も重要なことではないか。

理事からのメッセージ



ちば地域生活支援舎のサービスを利用する皆さん、東金の皆さん、はじめまして、松本と申します。日頃は、宮城県大崎市松山（旧松山町）に在住しています。

「宮城県」と聞くと、皆さんは「2011年の東日本大震災」がパッと頭に浮かぶかと思います。あの巨大地震は、現在生きている人々誰もが経験したことがない地震であり、地震学の常識を覆したものでした。知ってのとおり、津波の高さは、地域や場所によっては20メートルを越え、家を流し、船を流し、防潮堤を破壊し、何よりも、長年人々が築いてきた「その土地の暮らし・生活文化」を奪ってしまいました。

あれから4年…そこに暮らす人々と県外から応援に来てくれた人々が協働し、復興に向けた取り組みが活発に行われています。「石巻」「気仙沼」などの街の整備、公共交通機関、住宅等の整備もだいぶ進みました。

しかし、「その土地の暮らし」の立て直しに向けた支援は、まだまだ十分に進んでいないように感じます。

先日、仙台を会場に開催された「第3回国連防災世界会議・東日本大震災総合フォーラム」に参加し、様々な復興に関する取り組みや事業の報告を聞き、よりその思いを確信しました。

行政機関にとっても今回の災害は想定を超えるものであったと思います。緊急対応・復興活動で命を落とされた方もいらっしゃるかと思います。だからこそ、公的な立場として、震災状況を正しく共有し、対応について地域住民と共に考え、その取り組みを「後世の人たち」伝えていくことが大事なのだと思いますが、震災後の対応や復興活動の多くに疑問や不安を抱かずにはられません。中でも、原発については、次世代に関わる大事なこと…しっかりと事実と状況を共有し、考えていかねばならないと感じます。

話は変わりますが、震災後、津波の被害が大きかった石巻市渡波地区に、共生型の宅老所が開設されました。現在、その事業所は、千葉から来た青年が、地域の人達と共に運営しています。石巻の公的機関や医療機関、社会福祉施設等からの特別なバックアップもない中、コツコツと活動し続け、今では近所のお年寄り、子ども、障がい者など、いろいろな人の拠り所となってきています。

震災から4年、「復興」とは何か？」「何を大事に進めるべきなのか？」。

改めて、私たちは考えなければならないと思います。

そして、それは、皆さん一人ひとりに関わる「福祉や介護」にも言えるのではないかと思うのです。

松本 誠康（代表理事／社会福祉法人鼎会 理事）
※代表理事3人のうちの1人です。

各種イベント&活動情報

東金市 認知症家族交流会 ◆日時：平成27年8月13日（木） 13:30～15:30 ◆会場：ふれあいセンター2階・創作室 ◆経費：200円（お茶代） ◆主催・連絡先：穂垂るの会 井上（090-7171-1701）	東金市 第7回ほろ酔い会 （※障害者福祉を呑みながら語ろう） ◆日時：平成27年8月7日（金） 18:30～21:00 ◆会場：いちろう もつ鍋酒家（東金255-1） ◆参加費（実費）：3,000円程度 ◆主催・連絡先：鎗田（090-8510-1114）
東金市 きもの地サロン （初心者歓迎） 着なくなった着物をほどこき、アクセサリ、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。 ◆開催日：8月はお休みです。 今後に向けて、詳細を知りたい方は、 鶯嶺の家までご連絡ください。 （電話：50-0285）	東金市 ヨガサロン 旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。 ◆開催日：平成27年8月5日（水） 平成27年8月26日（水） 興味のある方は、ありさまでご連絡ください。 （電話：50-0362）
千葉市 「発達障害の人が生きやすい社会とは～医療と教育の連携を求めて～」 ◆開催日：平成27年8月29日（土） ◆会場：千葉市ビジネス支援センター・1～3会議室（きぼーる13階） ◆内容：午前の部（10:00～12:00）／「イトコサガシ ワークショップ」 講師：横山小夜子（ちゃびん）さん（東京都発達障害当事者会 ファシリテーター） 定員：30名、対象：当事者・家族優先、参加費：1,000円 午後の部（13:15～16:30）／「講演・事業報告」 講師：古荘純一さん（青山学院大学教育人間科学部 教授、 医学博士（小児科医・小児神経科専門医） 定員：100名、対象：どなたでも、参加費：1,000円 ◆お問い合わせ先：NPO法人ちばMDエコネット事務局（電話・FAX：047-426-8825）	

【法人内の各事業所から】

鶯嶺の家

（高齢者・障がい者）

だんだん暑くなり、GWにみんなでお出掛けした白里海岸のことを思い出します。K君と一緒に貝殻を拾ったり、サンライズ九十九里でお茶をしたり楽しい思い出になりました。これからますます暑くなるので、またみんなで海へお出掛けしたいと思います。

（児童）

最近一部でトランプが流行っています。神経衰弱やスピードで、大人も勝ったり負けたりたじたじです。それを見ている小さな子ども達も、興味を示して挑戦しています。まだまだルールを覚えられませんが、覚えようと真剣な顔つきで集中しています。少しでも出来ると達成感でとても嬉しそうなお顔を見せてくれます。また、様々な事に「なんで？」と聞いてくる子ども達。答えに苦労する事もしばしばありますが、大人の答えを真剣に聞いて、納得した様な顔をします。そんな時、世の中は不思議や疑問がいっぱいで色々知る事が楽しかった幼少時代を思い出し、羨ましくなる大人たちです。

子ども支援センターぽけっと

今年の梅雨は、例年より雨の日が多く、外出がし難い日々です。でも、子ども達は、元気いっぱい！雨で公園に行かれない日でも、室内遊びを楽しんでいます。今まではスタッフがいないと遊べなかった子ども達が最近ではお友達同士仲良く遊んでいます。TVゲームを譲り合って使ったり戦い方のアドバイスをし合ったり…。又、ごっこ遊びでは可愛いネコになりきって遊んでいます。憂鬱なお天気ですが子ども達は毎日エンジョイしています、(^o^)

サポートセンタースピリッツ

ようやくスピリッツをご利用される方が少しずつではありますが増えてきました。しかし、お子さんのご利用がまだまだ増えない状況です。お子さんのサービスは放課後デイサービスがこの地域では中心ですが、ヘルパーとマンツーマンでお出かけできるガイドヘルプもとても魅力的なサービスです。この夏休みにお子さんの楽しみの一つに新しいサービスを考えてみてはいかがでしょうか？ご興味がある方はご連絡下さい。

街かど福祉相談室ると

私たちの大事な役割の一つとして、多くの機関と繋がりを持つことがあります。全国の関係機関と！と言いたいところですが、それは難しいので、出来る限り多くの機関と良い関係を築いていくことをモットーに、日々努力していきたいと思えます。

ハンドワーク

6月27日(土)にシナリーの里の販売に参加しました。ソーイングボックスやエコクラフト、お菓子等を含め、“これは何？”“どう作るの？”などなどのお声を頂き、とても励みになりました(*^_^*)ありがとうございました。

ありさ

7月4日(土)、販売活動のため、航空博物館(芝山)に行きました。当日は、サーターアンドギー(プレーン・抹茶・紅茶・コーヒー)などのお菓子と、エコクラフトのバックを中心とした雑貨を販売しました。梅雨の中でしたが、晴れ男・女が頑張ったのでしょう、イベント中は雨が降りませんでした。ウルトラマンショー・チアリーディングショーに、皆大興奮でした。

かばの家

東金特別支援学校の実習が先週で終わりました。女の子が来てくれてにぎやかな週でした。実習お疲れさまでした。カバパンは、あずきと生クリームが入っていますが、気温上昇の夏の間は、あずきのみで販売します。チョココロネも、チョコクリームと生クリームが入っていますが、チョコクリームのみで販売します。よろしくお願いします。

五根の家・グループホーム、小規模多機能ホーム

7月3日に五根の家・第2回目のサロンを開きました。季節柄、参加者で七夕の飾り作りと短冊に願い事を書いて頂きました。願い事は皆それぞれで、詩人のような短歌風内容だったり、自分の事、家族の事をお願いをしたりと様々でした。普段字を書くことが少なくなっており、短冊の文章を見ると、口にはされない想いを表現されて、時には文字にしてみることも大事だと思いました。地元の民生委員さんから立派な笹の葉を頂きました。ご提供ありがとうございます。



ちばしゃ通信 (Vol.9)

発行日：2015年7月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

<編集者のつぶやき>

♪先日、ふと入った飲食店で、注文待ちをしていると、耳障りな声が聞こえてきた。声のする方を見してみると、カウンター向こうで、新入店員が先輩店員に怒られていた。どんなミス・事情かは解からないが、客に見える聞こえるところでの行為としてはふさわしくないと感じた。なぜなら、客にとってそこは、楽しく食事をする場だからだ。ふと、自分たちは？と思った。利用者の前で、同じような事(不快に感じる事)をしていないだろうか？(Jerry)
♪梅雨のせいもあり、毎日蒸し暑いです。暑さでボーっとしてしまいがちですが、下の階から聞こえる子どもたちの声で思わず笑ってしまいそうになります。夏休みはまた沢山の声が聞こえると思うととても楽しみです。(W)

ボランティア募集

子どもやお年寄り、障がいのある方への日常生活支援、作業・活動支援等に関わってみたい方を募集しています。土日・祝祭日、夏休み等の期間限定の方、初めての方も大歓迎です。

♪主な活動

- ①子どもの遊び相手、②お年寄り障がい者の話し相手・外出の付き添い
- ③食事づくり、④障がい者の就労活動の手伝い、⑤その他

♪対象者

中学生以上の方ならどなたでも可能です
(※未成年の方は、ご家族の同意が必要です。)

♪活動場所

主に、東金市内での活動になります。

♪時間

8:00～21:00 の間で可能な時間帯



パート・学生アルバイト募集

♪主な内容

- ①子どもの遊び相手
- ②お年寄り障がい者の話し相手
・外出の付き添い
- ③食事づくり
- ④障がい者の就労活動の手伝い

♪対象者

高校生以上の方ならどなたでも可能です
(※未成年の方は、ご家族の同意が必要です。)

♪活動場所

主に、東金市内での活動になります。

♪曜日・時間

月曜日～日曜日の可能な曜日
8:00～21:00 の間で可能な時間帯

♪時給

高校生 800円～
大学生・社会人 850円～
(※規定に基づいて交通費支給あり)

♪条件

週2回以上働ける方

ボランティア・スタッフ募集に興味のある方は・・・

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

〒283-0802 千葉県東金市東金421番地

Tel:0475-53-3630 (担当:太齋)